Everyone Can Create Project 2019活動報告

山口眞希（放送大学大学院）

2019活動報告

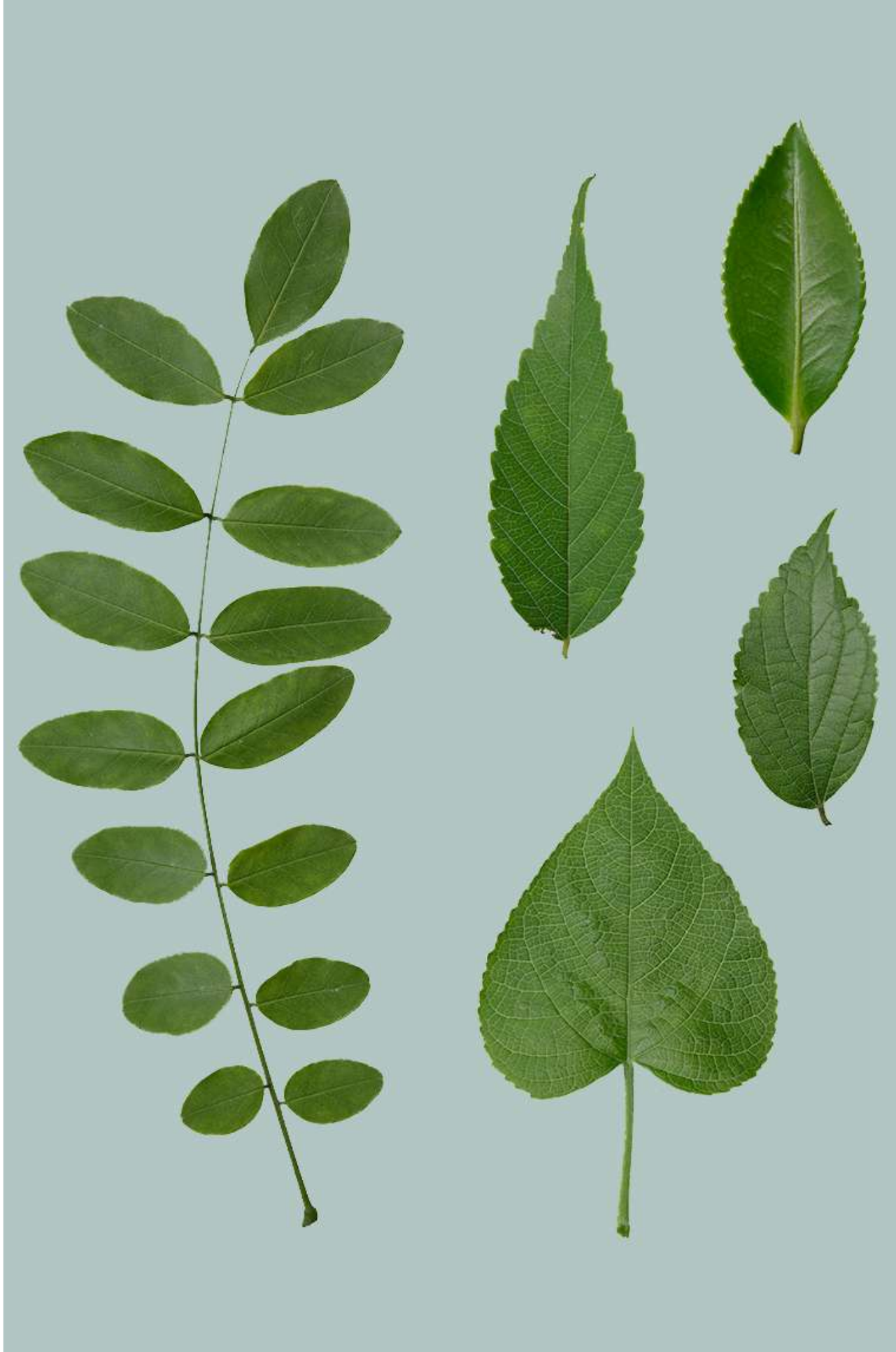
目次

プロジェクトのねらいと概要

ワークショップ報告

プロジェクトメンバーによる実践報告

今後に向けて



https://www.apple.com/jp/education/everyone-can-create/

ECC Project 2019 ねらいと概要

2019年度よりスタートした本プロジェクト。
このプロジェクトでは、Appleが提唱するEveryone Can Createを用いた教育実践の開発を目指しています。

授業を考える際に、creativity（創造性）といったこれまであまり着目されてこなかった部分を充実させることで、最終的なアウトプットとしての制作物の質を高めたり、教育実践そのものの質を高めることに貢献することを意図してスタートしました。

１年目である今年度の目標は以下の２点。
・Everyone Can Createについて理解促進、実践への展開を目的としたワークショップを開催する

・プトジェクトメンバーを中心にEveryone Can Createを用いた実践を行い、D-proBooksとして公開する

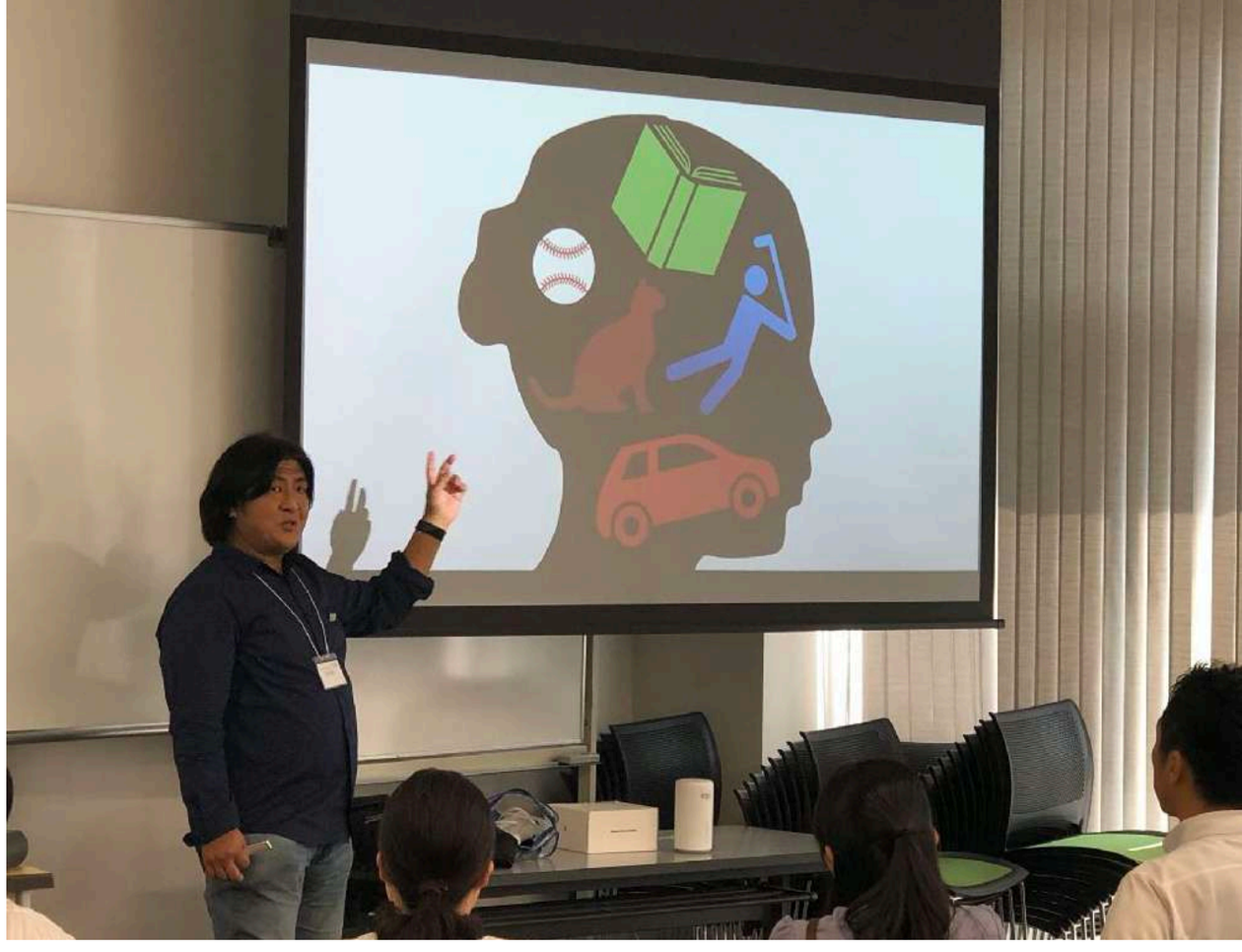
これらの目標は、今年度達成することができました。

全国各地で
ワークショップを開催

Everyone Can Createを知ってもらい、実践につなげるため、
全国各地でワークショップを開催しました。
講師はプロジェクトメンバーの他、D-Projectのメンバー、
Apple Distinguished Educator（ADE）の認定講師が務めました。

今年度は以下の地域でワークショップを実施しました。
たくさんの先生方が参加してくださいました。

・茨城　2019年5月1日（講師・中村純一、山口眞希）
・金沢　2019年6月17日（講師・反田任）
・金沢　2019年8月3日（講師・中村純一、山口眞希、荒木弥生子）
・関東　2019年7月27日（講師・藤原直樹）
・香川　2019年8月10日（講師・中村純一）
・茨城　2019年9月21日（講師・榎本昇）
・関西　2019年11月9日（講師・反田任）
・茨城　2019年12月7日（講師・品田健）
・金沢　2019年12月27日（講師・山口眞希、荒木弥生子）



EVERYONE CAN CREATEプロジェクト報告

Everyone Can Create in Kanazawa

反田 任先生によるCreativeなワークショップ！

D-projectと金沢大学授業力向上ゼミがコラボ開催

6月17日（月）D-projectと金沢大学授業力向上ゼミの共同開催で、2回目となるEveryone Can Createワークショップを開催しました。小中高等学校の教職員、教員志望の学生25名が参加。KeynoteとiMovieをメインに、わいわいと和やかな雰囲気でスケッチ、写真撮影、動画教材制作をしました。
反田先生のおかげで、新たなスキルを得ることができ、「授業でやってみよう！」という声がたくさん聞かれました。
ありがとうございました！

反田先生持参のグリーンバックを使うと、まるでみんなで一緒に踊っているような動画が完成！

コマをスケッチ
Applepencilを使って、コマをスケッチ。背景を切り取って合成も！

写真の上からスケッチ
この手法は理科の植物や結晶の観察に役立ちそうとの声が！

教材動画を制作
特別支援学級で「物の分類」に興味を持たせる動画を作成。
Let's Creative！！

ワークショップでは、グリーンバックを活用した教材作りや、冬の外来語を見つけて動画で紹介する活動、写真をいろいろな角度から撮影して新たな発見を促す活動、自分の頭の中を写真で表現する活動など、ECCの4つのガイドブック「写真」「スケッチ」「音楽」「動画」を生かした様々なテーマの内容が盛り込まれました。

参加者は「子どもの目線」に立って表現活動を体験。他の人と対話を重ねることでクリエイティビティが自分の中から湧き出てくることを実感されたようです。

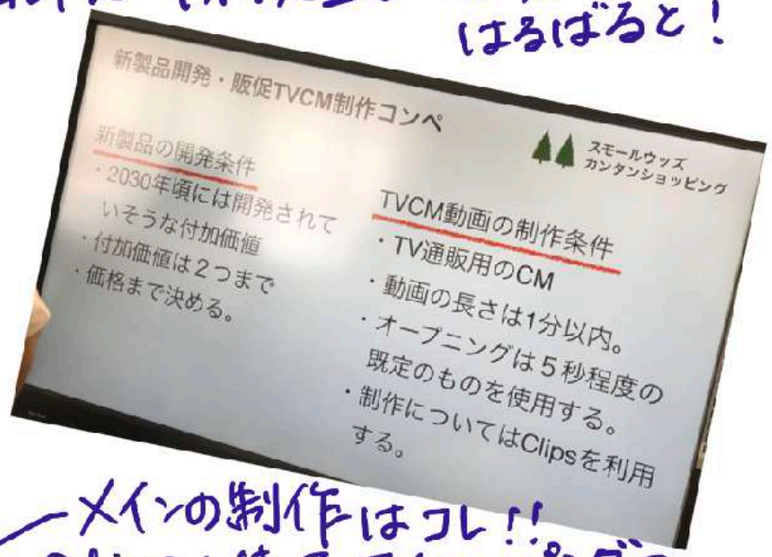
ワークショップ終了後、講師のまわりを先生方がとりかこみ、授業での取り入れ方や、やってみたいことをiPadで実現する方法について質問する場面がどの会場でも見られました。

ワークショップの開催後は、どんな様子だったかを報告書にまとめ、メーリングリストを通して全国のD-projectの仲間たちと共有しました。

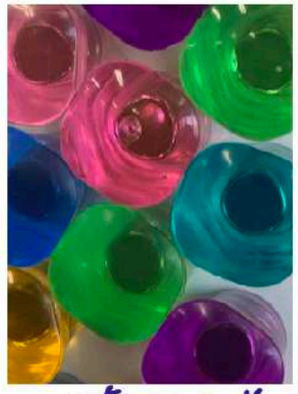
Everyone Can Create ワークショップ in 茨城

2019.5.11 茨城大学

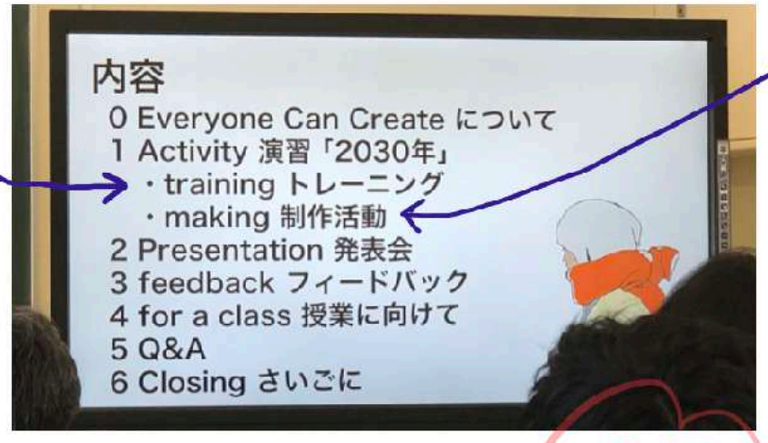
講師は中村先生。佐賀からはるばると！



メインの制作はコレ!!
Clipsを使ってTVショッピングの動画を制作!!



いろいろな角度から写真をとると、新しい発見がある!!



演技指導にも熱が入ります！

どのグループもすばらしい発表でした!!

ロケに出発！

小・中・高・特支・大学教員，教育委員会 など 35名の参加
ありがとうございました!!

ワークショップの様子

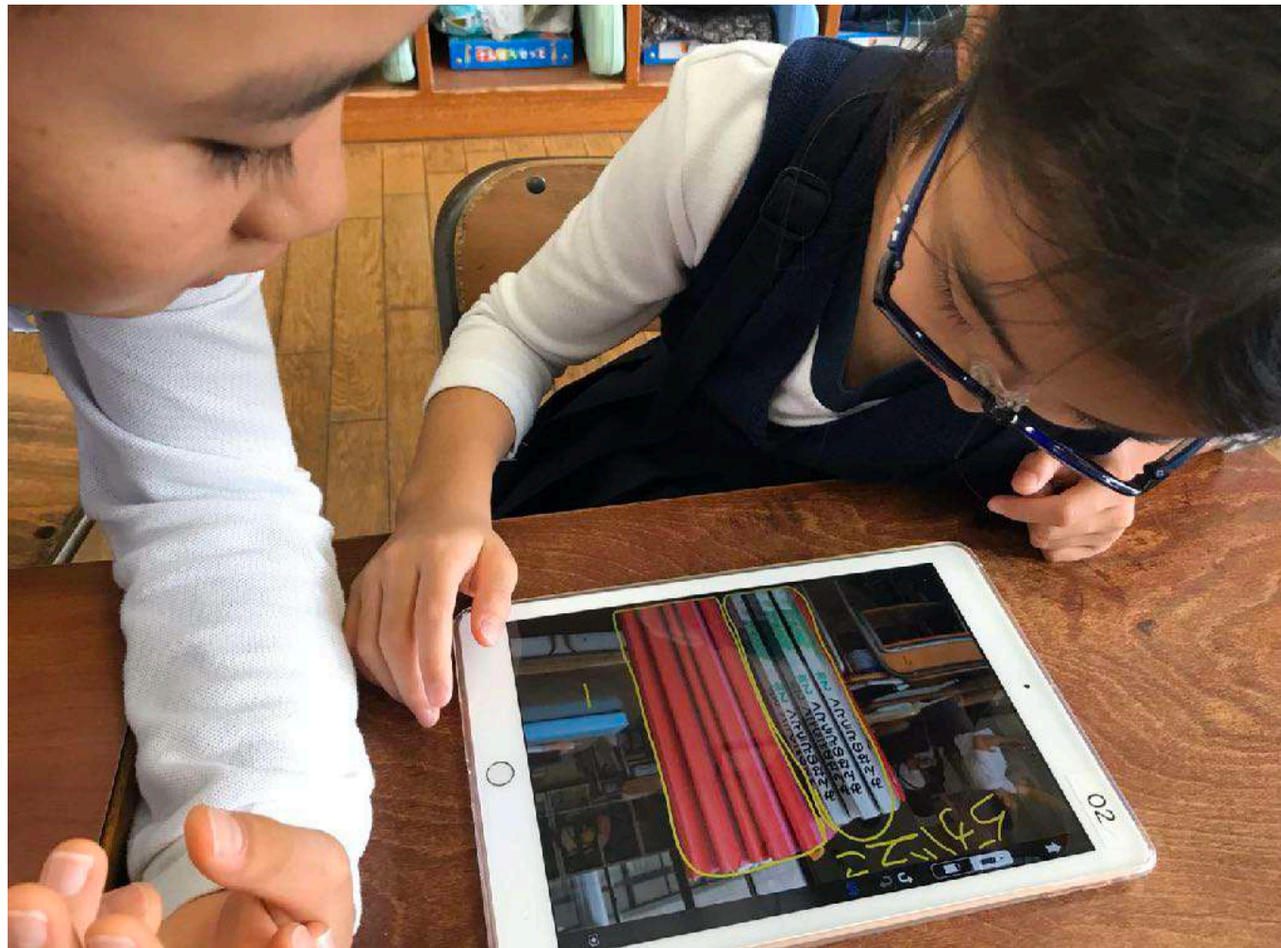
プロジェクトメンバーによる実践の蓄積

プロジェクトメンバーを中心に、ECCを授業に取り入れることによって、より子ども達の創造性が豊かになり、学びが深まる授業作りについて考えました。

実践はすべてD-proBooksにまとめ公表しました。

その中からいくつか実践事例を紹介します。

すべて、続きはD-proBooksのページからご覧ください。



絵本の世界に、iPadで飛び込もう！

2年国語科～レオ・レオニの世界に飛び込もう～スイミー　　金沢大学附属小学校　岡本光司

絵本の登場人物と一緒に行動する様子を表すため、ポージングを考えて撮影し、合成した。

自分も登場人物の1人になって、物語をさらに深く読み込む

この学習では、単元を大きく3つに分けて、学習を行った。

第一次の導入では、絵本作家レオ・レオニ作の絵本を複数読み聞かせし、たくさんの作品があることを紹介した。児童は「読みたい。お家の人にお気に入りを見つけて紹介したい」という意欲と、これからの学習の見通しをもった。

第二次では、教科書掲載文「スイミー」について、で、登場人物の行動と心情の変化を、叙述をもとに読み取り、自分のお気に入りの場面を友達に紹介し合う学習を行った。

そして第三次で、それぞれのお気に入りの絵本を紹介する学習の際、「絵本のなかに僕も入ってみたい」という児童の願いをきっかけに、教師用iPadで、Keynoteのインスタントアルファ機能で絵本と写真を合成できることを紹介した。児童は、一人ひとりお気に入りの絵本から、登場人物と会話したり、一緒にいたい場面を選び、ポーズとセリフを決めて、写真撮影をした。さらに絵本紹介のワークシートを作成した。

続きはD-proBooksで！

伝えよう自慢のあさがお

小松市立符津小学校　茗荷谷 衣里奈

1.単元　１年生活科　ひとつぶのたねから

2.ねらい　身近な植物に興味関心をもち、それらに生命力があることに気づくとともに、植物を大切にすることができるようにする。

3.ねらいに迫るための学習のプロセス

（１）指導計画

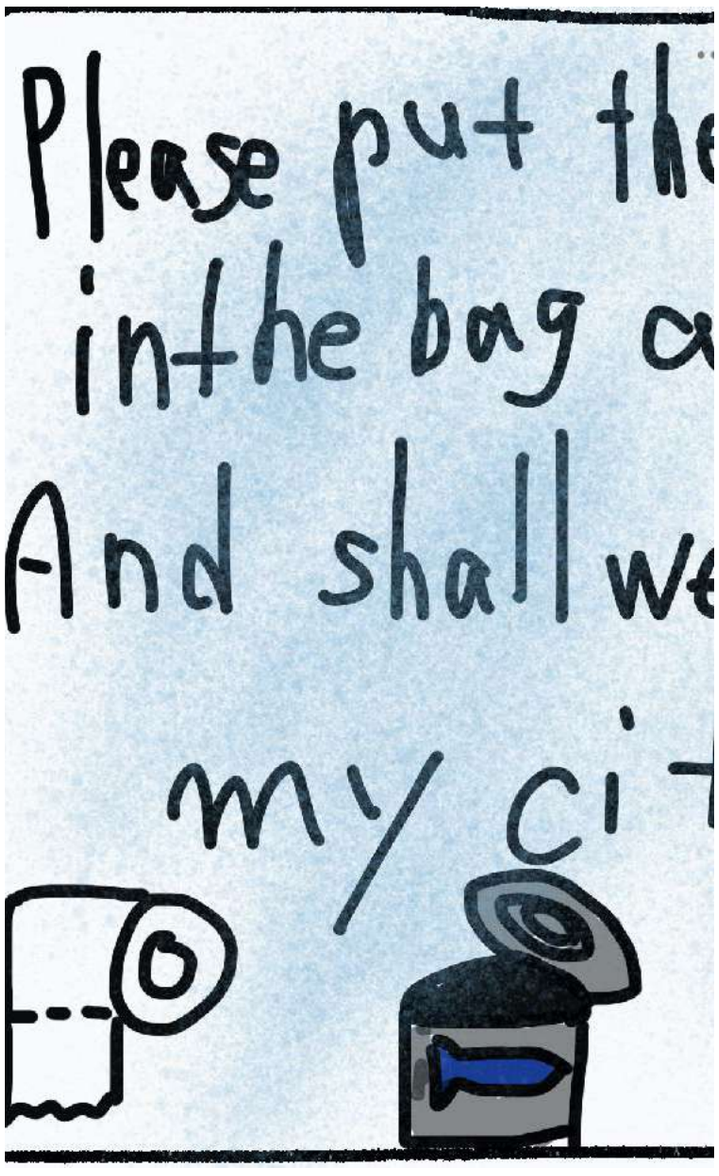
学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動（◯）と内容（•）
相手意識・目的意識をもつ	2	自分が育てたい花を決め、元気に育つように願いながら、花の種を植えることができる。	○どのような朝顔の花にしたいか考える ・１粒の種から、どのような花をさかせたいか考え、ゴールを明確にする。 ○朝顔の種を植える ・２年生と一緒に１人１鉢にアサガオの種を植える。
見る(観察) 見せる　つくる （世話の仕方の工夫）	3	自分の育てている植物の変化や成長の様子に関心を持ち、生長に応じた観察や世話をすることができる。	○朝顔の栽培を行う（課外） ・毎日朝顔の水やりを行う。 ○朝顔の観察（芽生え～開花） ・種との違いに気づき、生長には水やりや日光が必要と理解し、自分で考えた場所に鉢を置く。 ・前回の記録と比べて、大きくなったこと実感し、自分で決めた数だけ間引きを行う。 ・ツル伸びて困ったことを話し合い、支柱を立てる。 ※生育場所は、生長に合わせて変える。
つくる	2	花を育てた様子を振り返り、作品に表したり、友達と交流したりしようとしている	○朝顔の生長をふり返り、ポストカードをつくる。 ・栽培活動をしたことをもとに、自分との関わりを振り返る。 ・朝顔の花を写真に撮り、メッセージや絵をかきポストカードを作る

続きはD-proBooksで！

表現力を使いたくなる場面に出会うと…

サービス・ラーニングの取り組みを通して学ぶゴミの捨て方と地域貢献

佐賀市立大和中学校　中村純一



英文だけでよいと言ったものの・・・ついイラストを描いて，より伝えようとする。

はじめに

今年初めに，アメリカの先生の取り組みを読んでいるときに，サービス・ラーニングという言葉に出会った。これは，ボランティア活動や地域貢献活動を通して学ぶ活動として，1980年頃からアメリカで始まった教育活動ということである。日本福祉大学のホームページでも，サービスラーニングについて紹介されており，

> サービスラーニングは，『学生が直接，自分自身で意味ある経験をすること』『その経験を教員の指導のもと熟考し，ふりかえり，分析すること』という二つの過程を結び付けた学習方法です。
> 引用：日本福祉大学HP　サービスラーニングとは

と紹介されている。実際には十分取り組むための時間がない状況であったが，受験に向けた対策的な授業になる前に，応用的な学習の一環として，高校での学習につながることを経験させてあげたいという思いから，私の英語の授業において，サービスラーニングについて学び，何か取り組んでみることにした。

佐賀市立大和中学校では，生徒会行事の一つとして，毎年12月頃に，校舎周辺地域へ出かけて，地域に捨てられているゴミを拾う「クリーン作戦」なるものが実施されている。サービスラーニングについて知ったのはその後だったが，地域貢献と英語の授業との結ぶ活動を少しでもする時間をほしいと考えていたこともあり，ゴミ問題について考えてみたいと思った。しかし・・・

続きはD-proBooksで！

GarageBandで簡単作曲！

それは，作曲をしたい！というYの言葉から始まった．

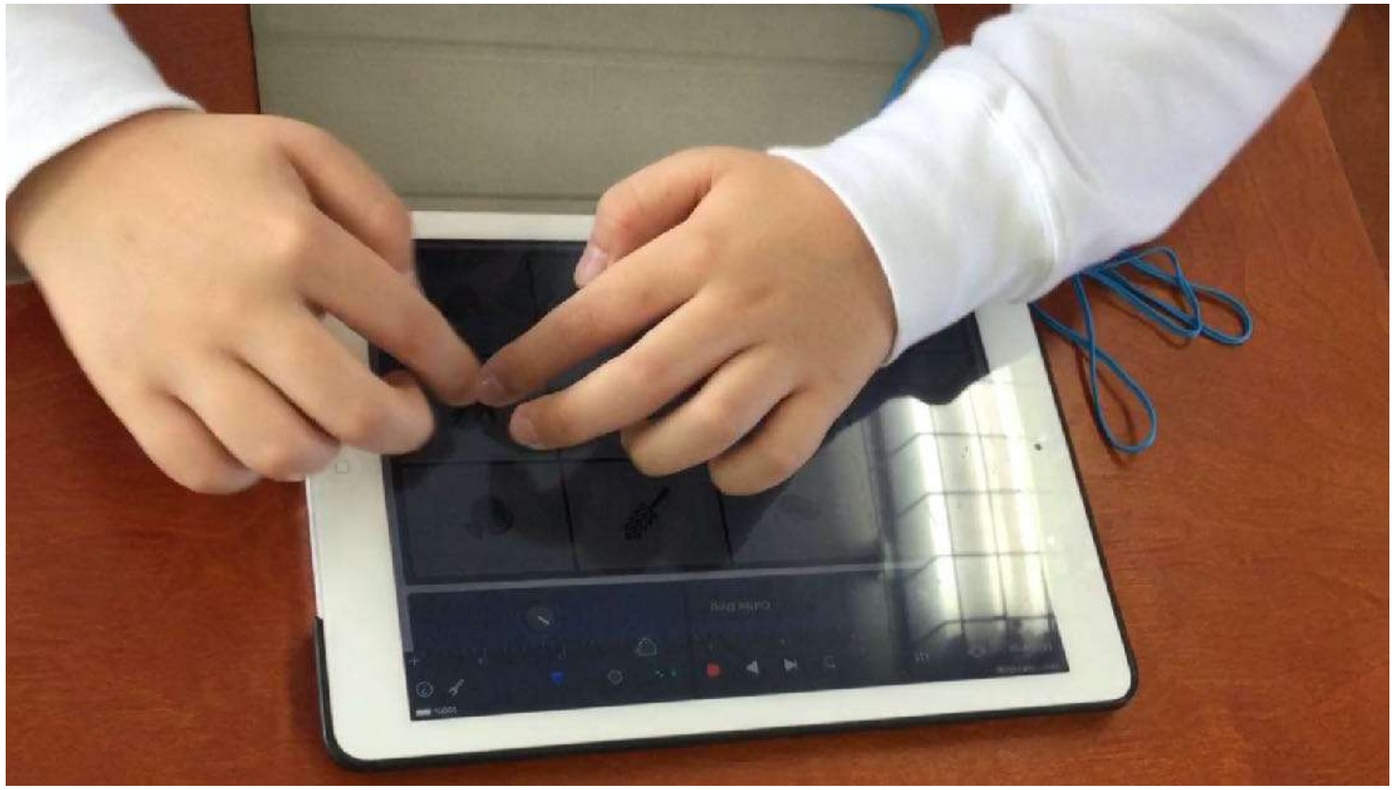
金沢市立中央小学校芳斎分校　荒木弥生子

「俺，作曲をしてみたい．」

これは，特別支援学級の自立活動の実践である．自分の興味関心があるものに対しては，とても積極的なYが，ある日「作曲をしてみたい．」と言い出した．一緒に授業をしている他の児童も，音楽が好きで楽器の演奏が好きな児童ばかりだった．しかし，作曲とは１からやるには難しい．そこで，GarageBandを使って作曲を行うことにした．

こんな才能があったのか！

まず最初にループ機能を使って作曲を行なった．教師が児童に示したのは，ループ機能の紹介だけである．子どもたちは，教師の説明もそこそこにiPadに向かって作曲を始めた．それぞれがイヤホンをつけて取り組んでるため，教師はただ見守るのみである．約



束の時間，それぞれの曲の発表である．音のサンプルを組み合わせるだけで出来上がるが，それぞれが全く違ったテイストの曲を作り，教師が練習用に作った曲よりもセンスが光るものに仕上がっていた．脱帽である．

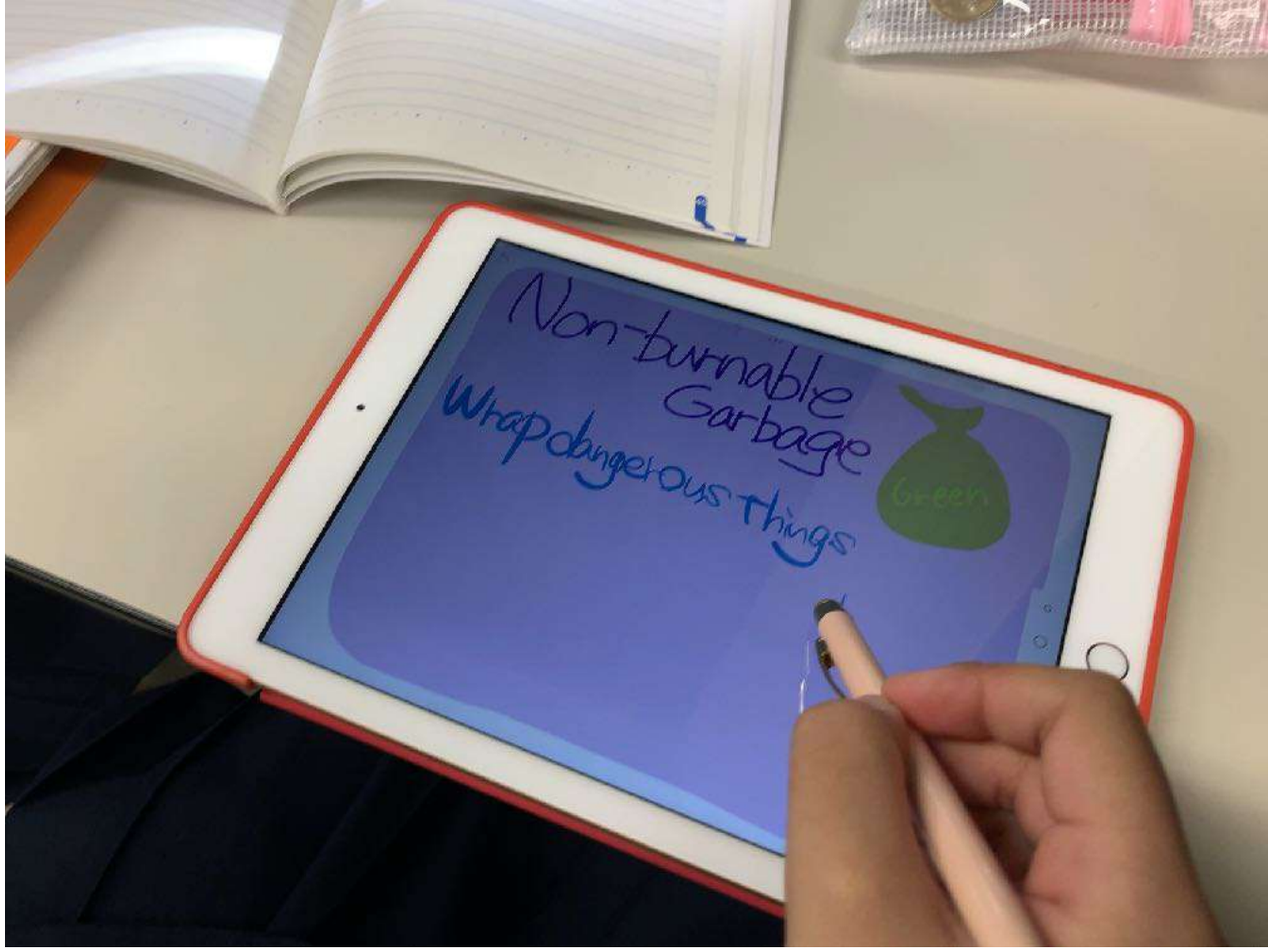
実践を行なった学級は自閉症・情緒障害特別支援学級である．コミュニケーションや関わりに課題がある児童たちであるが，曲が出来上がると聞いて欲しくなるのが人情とばかりに，「ちょっとこれ聞いてみて」「あ，いいね．（AirDropで）これちょうだい」「じゃ，（AirDropで）送るね」というやりとりが見られた．GarageBandでの作曲を通してアプリと児童共に自己表現への大きな可能性を感じた．

続きはD-proBooksで！

今後に向けて

1年目は、ワークショップ開催を通してより多くの先生方にECCを知ってもらうこと、楽しんでもらうことに重点を置いて活動してきました。

今後は「授業化」することを目標に、より多くの実践を蓄積していきたいと考えています。



Everyone Can Create プロジェクトメンバー

山口 眞希（放送大学大学院）
小林 祐紀（茨城大学）
中村 純一（佐賀市立大和中学校）
山中 昭岳（さとえ学園小学校）
稲田 健実 (福島県立平支援学校)
薄井 直之（古河市立上大野小学校）
荒木 弥生子（金沢市立中央小学校芳斉分校）
岡本 光司（金沢大学附属小学校）
茗荷谷衣里奈（小松市立符津小学校）

すべての授業にクリエイティブな表現を

Everyone Can Create